

ユーラシアン・ホット・ライン

Eurasian Club News Letter Vol. 22

2001年 1月

ヘッド・ライン

クラブ代表から新年のご挨拶 p1

言語文化塾第2期生を募集中 p2

「キルギス文化フォーラム」を1月14日 p1

モンゴルの子供達に学校を！ p2,p3

<クラブニュース> p3~p4 今後の事業内容について ホームページが新しくなります 江東区への提案

国際交流基金に助成金を申請 サポート会員・ボランティア会員を募集中 OI 戦略を始動

<他団体からの情報> p4 「ウズベキスタン共和国大使館便り〜シルクロードチャンネル」

<会員動向> p1 ウズベクの山本さんから年賀状

クラブ代表からの新年のご挨拶

21世紀の初頭にあたり新年のご挨拶を申し上げます。

活動の節目となる2001年の初頭に嬉しい便り、「特定非営利法人ユーラシアンクラブ」の認証書が届きました。創設以来の課題の一つが実現したことになります。依然 力不足に変わりはないものの、多民族多文化社会に不可欠な「国家民族宗教を超えた理解親睦協力促進」の目的のために一層励んで活動するつもりです。ご支持よろしくお願ひします。今後の活動の中心の一つは、支援事業の活性化です。「特定非営利活動法人」認証に伴い、助成団体との話し合いが円滑化する見込みであり、この間ペンディング状態になっていた支援協力事業を再度活性化したいと考えています。もう一つは、当面東京都 江東区での「江東区ユーラシア文化ルネッサンス事業」です。1月14日午後2時から、江東区文化センターで実施する「キルギス文化文化フォーラム・ウイグル人演奏家の友情コンサート」がスタートを飾ります。多くの方にお声かけいただくようお願ひします。

ところで私は、年末年始を沿海州、アムール流域の先住民族ウデゲ、ナナイの民族村 クラスニーヤル、シカチアリヤンを訪ね、旧交を温め、旧ソ連崩壊から10年。クラブの創設を準備し、活動を始めて10年を数える活動を考えるという機会を得ました。ひと気ない森林の清冷な水と空気を吸いながらミレニアム2千年紀の意味や20世紀の意義が自ずから整理されたような気がします。個性の尊厳、略奪された人々、少数者への思いやりが人類の命運を決めるのだということです。多民族多文化社会に国家はどう機能するべきかがこれからの大きな議論になるし、一部の国家や人々に占有される資源管理の国際的ルールづくりも重大事です。多くの人が懸念しているとおりに、私も人類の命運の危うさに焦燥感を持つひとりです。別途ご報告させていただくように、クラブ創設のきっかけとなった日本海対岸の少数民族村での活動は無念の思いが残る結果でした。今でも志は変わらぬものの、初期の成果どころか、問題を山積させたまま10年が過ぎたような気がします。とはいえ去年はささやかな溜まり場兼用の会議室を得て、クラブの絆組みの核ができ、月1回の事務局会議、留学生を含めたミーティングも定例化していきました。月1回を目標とするニュースレターの発刊活動も始まり、ホームページの一新ももうすぐです。クラブ設立のきっかけとなった村においても、多くの問題を抱えながら10年目を迎えたこととなりますが、反面、こうした問題の所在を理解し私と行動をとりたいという人も現れたことになっており、私としては、これまで以上の工夫と努力を傾注し今後の10年に取り組んでまいりたい所存です。改めて皆様のご理解とご協力を祈念しながら、新年のご挨拶を申し上げます。

ユーラシアンクラブ 大野 遼

「キルギス文化フォーラム」を1月14日に開催

前号でお知らせしました「キルギス文化フォーラム」の開催が目前に迫りました。(財)江東区地域振興会と江東区文化センターの全面的な協力を得て、クラブ内ではキルギスに関係・関心を持つ若手スタッフを中心に準備を進めています。昨年日本入拉致事件ですっかりイメージダウンしたキルギスですが、天山に連なるアラトーの山懐に抱かれ、青く透き通る神秘の湖インク・クルを擁し、ユーラシアの「真珠」とうたわれる国でもあります。今回は、その暮らしや文化の魅力を、民族の誇りである英雄叙事詩「マナス」を手がかりに探求します。21世紀の幕開けに異文化に触れるひとときをお過ごし下さい。

キルギスから短期留学中のモロドガジエヴァ・アイダ・トゥルガンエヴァ(ジャーナリズム研究者)、キヴァンスキー・ヴィタリー・アレクサンドロヴィッチ(医師・日本センター日本語教育助手)の両氏を講師に迎え、さらに隣接民族

ウイグルのラワーブ奏者ママト・ウメル氏には友情演奏をしていただきます。

そのほか、ビデオ「アラトーからフジヤマへ」や様々なスライドの上映、歌、舞踏、キルギス菓子「ボールソック」の試食なども予定しており、内容豊富な楽しい催しです。ふるってご参加下さい。

日時: 2001年1月14日(日) 午後2時~4時

会場: 江東区文化センター視聴覚室

(地下鉄東西線東陽町駅下車すぐ)

(住所: 江東区東陽4-11-3)

電話: 03-3644-8111)

会費: 千円 お問い合わせ・お申し込み: クラブ事務局まで

■言語文化塾第2期生を募集中

受講した皆さまからご好評をいただいている「ユーラシア言語文化塾」。第2期のスタートに向けて新たに受講生の募集をしています。プログラムは以下のとおりです。ふるってご参加ください。

募集人員：各コース5～10人(コースごとに申し込み)

受講料：1コース1万円(入金確認後受講決定)

振込先：東京三菱銀行虎ノ門支店普通 1053500ユーラシアクラブオノリョウ

開講時期は2月初旬を予定。お問い合わせ・お申し込みはクラブ事務局まで。

I「大地からのメッセージー口琴・ホーミー塾」

講師：直川礼緒さん(日本口琴協会会長)

内容：口琴は、日本を含めユーラシア大陸に普遍的にとっても良いほど広く使用されている原初的楽器の一つです。忘れられていた音色は復活し、世界各地で口琴大会も開催され、高度な演奏技術が競われる程になっています。また喉歌は、キリスト教音楽を背景にイタリア歌劇の中で成長したベルカントとは潮流を異にした中央ユーラシアから北極圏にかけて広がっており、モンゴルを中心に広く歌われているホーミーも人類の発声法の可能性を示す独特の歌い方として多くの人に知られるようになりました。言語文化塾は今後継続的に取り上げていきたいと思っています。

開催日時：2月1日～3月1日 毎週木曜日午後7時から9時まで

第1回2/1：口琴はどういう楽器か、いつ、どこで演奏されているか。ビデオ・CD。

実技(練習)；持ち方、口の当て方、音の出し方。

第2回2/8：アジアと日本の口琴。ビデオ・CD。

口琴演奏の実際；面白い音を出す、メッセージを伝える、メロディを演奏する。

第3回2/15：ヨーロッパの口琴。ビデオ・CD。

実技(練習)；初級テクニック。舌、ノド、鼻腔の使い方とはじき方

第4回2/22：サハの口琴、暮らしと文化。ビデオ・CD。

実技(練習)；上級テクニック。唇、息の使い方とはじき方

第5回3/1：口琴の可能性について。口琴の創作と発表。

※ホーミーについての原理と実技を毎回含みます。

II「モンゴル編一歌から学ぶモンゴル語」

講師：ソヤラさん(内モンゴル出身の琵琶演奏家、拓殖大学留学生)

内容：初心者対象です。初めての外国語は取っつきにくいものですがこの講座については心配無用です。モンゴルの代表的な歌を毎回1曲ずつ紹介し、その歌に関連する事柄について説明し単語を覚えていきます。モンゴルの歌を最低でも一曲は覚えましょう。また、毎回会話練習の時間を作ります。会話文はカタカナで表記します。

開催日時：2月7日～3月7日 毎週水曜日午後7時から9時まで

第1回2/7：今日の歌「お酒で祝う歌」；出会いやおめでたい席での作法の話と関連語

会話：簡単なあいさつ

第2回2/14：今日の歌「やせの白鳥」；風土や動植物の話と関連語

会話：数字と暦を使う言い方

第3回2/21：今日の歌「オポーでデート」；若者や恋愛の話と関連語

会話：簡単な質問文会話

第4回2/28：今日の歌「母の歌」；家族や家庭生活の話と関連語

会話：親族呼称と身体の部分の名称

第5回3/7：今日の歌「私はモンゴル人」；遊牧民の風習の話と関連語

会話：地名と人名についての説明

特別懇談会：日時は相談の上で決定

モンゴルティー(スーテーツァイ)と肉餃子の料理・試食会

羊の肉を買って実際に料理を作ってみましょう。

■3月17日に民族音楽コンサート「下町ユーラシア文化ルネッサンス・フェス」を開催

今後の継続的な江東区での事業展開に向けて、3月17日(土)に江東区・江戸資料館ホールにおいて「江東区ユーラシア文化ルネッサンス事業」のプレ企画として民族音楽コンサートを開催します。ウイグルのラワーブ奏者ママト・ウメル氏、モンゴルの歌手バイラ氏、口琴・ホーミー奏者の直川礼緒氏、アイヌの弦楽器トコリ奏者が出演します。さらに地元からは豊洲のチャンゴグループ「ノリマダン」や民謡歌手なども出演を予定しています。シルクロードから朝鮮半島を経て江戸の下町に至る各地の民族芸能を繰り広げます。詳細は追ってご連絡いたします。

■モンゴルの子供達に学校を！

「新学校完成予想図」⇒

ユーラシアンクラブでは、モンゴルへの学校寄贈という協力支援プログラムを実行委員会方式で立ち上げることになりました。

クラブ会員の杉山一徳氏は、昨年8月にモンゴル・ウランバートルを訪問し、当地のNGO団体「子供発展センター(CHILD DEVELOPMENT CENTER)」(アズザヤ女史主催)に700米ドルと文房具を寄贈しました。当団体は、貧困家庭の子供達がストリートチルドレンにならないように初等教育をおこなっており、現在約40人の在校生がいますが、入学希望者はまだ200人ほどもいるとのこと。帰国後も当団体と交流を続ける杉山氏が、新しい教室の建設費や運営費について問い合わせたところ、将来的な希望として新しい学校的设计図とレイアウトが送られてきました。建設費は約25,000米ドル(約280万円・レートにより変動)で、その額は建築専門家が算出したものだそうです。

杉山氏は「モンゴルへ学校を贈る会」をすでに御自身で発足させ、募金活動に献身しておられます。募金活動開始についてはまだモンゴル側には伝えていないようです。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

クラブとしては、杉山氏の活動と相互に協力しながら、カンパの募集や助成金の申請などさらに幅広く取り組んでいきたいと考えています。

「モンゴルへ学校を贈る会」

送金先：郵便振替 口座番号 008700571168

講座名称「モンゴルへ学校を贈る会」

問い合わせ先：〒410-0823沼津市我入道秋葉町424-2 杉山一徳
TEL&FAX 0559-32-5959 E-mail CYQ07121@nifty.ne.jp

■「平和のための宗教者の対話促進支援連絡事務局」の発足について

昨年より、クラブ代表大野が日蓮宗や立正公正会などの宗教関係者への呼びかけをおこない、チェチェンをはじめとしてユーラシア各地で起こっている紛争の解決を目指して、「平和のための宗教者の対話促進支援連絡事務局」を実行委員会方式で発足させる運びとなりました。当初は、チェチェン問題の平和的解決を祈念しつつユーラシア各地を行脚されている日本山妙法寺の寺澤清世僧侶による現地の報告会や、「ユーラシア平和のためのフォーラム」などが話し合われる予定です。

追伸：寺澤僧侶は1月8日に一時帰国の予定です。

■アイヌとアメリカ先住民の交流会開催

訪日して東京から広島まで約1000kmを平和を祈りながら歩き通したアメリカ先住民の代表らが、昨年12月16日から17日にかけて山梨県大月市にあるアイヌの浦川治造さんのポロチセを訪れました。訪れたのは、北アメリカの五大湖周辺を主な居住地とするアニシュナベのトム・ドストゥさんら。アイヌ側は浦川さんをはじめ10人あまりが出迎え、これからの健康や幸福を祈る儀式カムイノミを行い交流会を催しました。クラブからも、代表の大野、内モンゴルのイジンフ、ウズベキスタンのガイラトの3氏が参加しました。

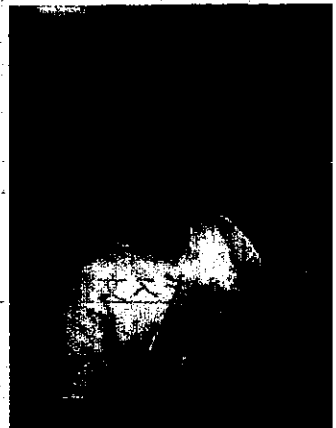
「順調に回復して笑顔みせる

アタイちゃん(無断掲載)」

■バラムイギンさんの長女、日本で手術

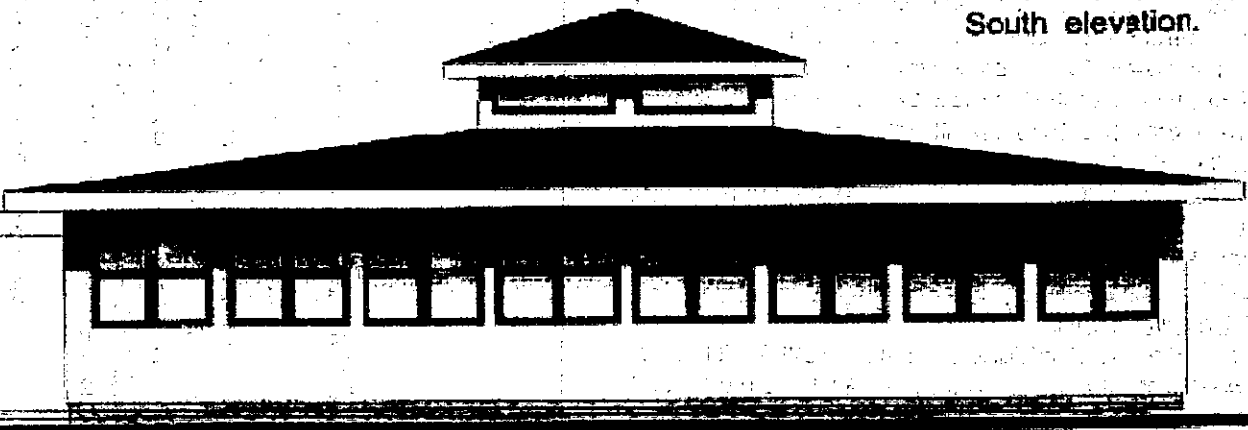
クラブ協力者で昨年夏に帰国したサハのニコライ・バラムイギンさん(元サハ共和国在日代表部首席・現ハンガラス州第一副知事)が、長女のアイタちゃん(10歳・1990年9月20日生まれ)は、胸部に脂肪腫ができる重病になり緊急治療の必要がありましたが、9日に新潟大学医学部付属病院胸部外科に入院して年末に手術を終え、年明けの2日に無事退院しました。今後しばらくは日本で静養するそうです。

ご夫妻の滞在費については、バラムイギンさんと旧知の寺田達雄さんがカンパ募集に尽力されましたが、ユーラシアンクラブを通じて多くの方々からご協力をいただきました。どうもありがとうございます。なお、バラムイギンさんご一家は現在東京付近で静養先を探しておられます。心当たりのある方はご一報下さい。よろしくお願いいたします。





South elevation.



Хүүхдийнхөгжлийн төвийн Хүүхэд хөгжүүлэх хамгаалах цогцолбор

<Клуб Ньюс>

■ 今後の事業内容について

今回の特定非営利活動法人(NPO)化の認証にあたり、法人化後の事業内容について簡単にご説明します。

初年度は法人成立の日から3月末までの2カ月半あまりです。この間の事業としては、「ボイス・オブ・ユーラシア事業」「言語文化塾事業」「ユーラシアンフォーラム事業」を予定しています。

このうち「ボイス・オブ・ユーラシア事業」は、インターネットの普及に鑑み、コンピュータ・ネットワークを通じてユーラシア各地の協力者と通信し合い、ユーラシア情報を共有して相互理解と交流を活性化・促進していくことを目指します。まず、公開型メーリングリストの開設とメールマガジンの発刊を早急におこない、将来的には出版物の発行を目標としています。公開型メーリングリストは、ユーラシアに関心を持つ方々に広く参加を呼びかけ、お互いの情報・意見の交換や交流の場として活用していただきたいと思えます。メールマガジンは、ユーラシア各地からのホットな話題を一回読み切りの形で、登録した方々の元に定期的に配信する事業です。両方とも整備がととのい次第アドレスや参加方法も含めてご連絡いたします。

「言語文化塾事業」は第2期として「口琴・喉歌編」と「モンゴル編」を2月より開始する予定です。「ユーラシアンフォーラム事業」としては、第1弾として新春の「キルギス文化フォーラム」を開催します。

次年度からは、上記に加えて「サウンド・オブ・ユーラシア事業」「ユーラシア支援協力企画」もスタートさせます。「サウンド・オブ・ユーラシア事業」は、ユーラシア諸地域の民族音楽コンサートを開催する事業で、クラブ事務局はすでに江東区の文化ホールとの間で話し合いを進めています。3月1-7日にはそのプレ企画をおこなう予定です。「ユーラシア支援協力企画」としては、ウデグ族などロシア極東沿海州の少数民族の民族教育支援プログラムやモンゴルの学校建設支援などを計画中です。

■ ホームページが新しくなります

クラブのNPO法人化に合わせてホームページも一新します。法人化後の事業計画に沿うかたちで、「トップページ」以下、「ボイスオブユーラシア」「サウンドオブユーラシア」「ユーラシア言語文化塾」「ユーラシアンフォーラム」「ユーラシア支援協力企画」と合わせて7つのおもなページで構成し、各事業の進行状況をわかりやすくお伝えします。また、各ページごとに担当者を定め内容の充実・更新につとめます。さらに、ページにリンクした→

→ユーラシア地図や、アニメーション・ロゴマーク・カラフルなボタンなどを配置してデザインも一新し、誰もが訪れて楽しめるページにします。ご期待ください。

なお、ユーラシアンクラブとしてドメイン名を取得し、ホームページのアドレスも同時に変更する予定です。移転先が決まり次第、追ってご連絡いたします。

注：今後、スペースの関係でこのニュースレターでは全文を掲載できない情報に関しましては、抜粋のみを紙面で紹介して「詳細はHP（ホームページ）に掲載」などと付記してホームページ上で詳細することになります。ご了承下さい。

■ 江東区への提案

去る12月クラブ代表大野は、江東区での今後の継続的な事業展開を目指すうえでの指針として「江東区ユーラシア文化ルネッサンス事業」を（財）江東区地域振興会に提案しました。事業の趣旨は以下のとおりです。

＜趣旨＞多民族多文化社会といわれる21世紀に、まちづくりの将来ビジョンやコンセプトを持つことは、文化的施策、事業の基礎としてウエートを置いて取り組むべき課題であるが、21世紀はユーラシアの時代。ユーラシアの人と文化を受け入れた日本列島はユーラシアに開かれたパラボラアンテナ。古代以来の日本文化の源流を全て受け入れた江戸。江戸の文化を支えた江戸の東・江東区は、こうした情報・文化が最後に集まったところ。深川社寺文化の源流もユーラシア。下町からユーラシア文化ルネッサンスの奔流を、地域の文化施設を核に、まちづくり事業の推進—といったところが、キーワードとなる。

この趣旨に沿って立てられた具体的な事業計画では、ユーラシアンクラブの個々の活動（公演・フランチエイズ・ブラスティバル、レクチャーコンサート、フォーラム、言語文化塾、写真展、民族料理を食べる会）について区内各地域の特色を考慮しつつ、文化施設・社寺・商店街と連携しながら企画・運営することを提案しています。

＜詳細はHPに掲載＞

■ 国際交流基金に助成金を申請

去る12月に、クラブ代表大野は国際交流基金へ助成金を申請しました。これは、「江東区ユーラシア文化ルネッサンス事業」の一環として2002年に開催を予定している「ユーラシア芸能祭」への出演団体として、ウズベキスタン・ブハラから民族芸能団「サシマコム」6人の招聘を目的としたものです。

■ サポート会員・ボランティア会員を募集中

NPO法人化に伴い、クラブの会員規定も変更になりました。年会費1万2千円によって経済的に支えていただくサポート会員と、スタッフとしての活動でクラブを盛り立てていただくボランティア会員を随時募集中です。お誘い合わせの上ぜひご入会ください。

＜登録用紙はHPに掲載＞

■ OI戦略を始動

クラブでは、NPO法人化やホームページの刷新を機会にOI戦略を練っています。これは企業のイメージ戦略（CI = Cooperate Image）にならった団体のイメージ戦略（OI = Organization Image）のことです。外部に対してクラブとしての統一的なイメージを発信し、インパクトを強めようという試みです。具体的には、ロゴマーク、「ユーラシアンクラブ」の字体、シンボルカラーなどを現在考案中です。ロゴマークとしては、ユーラシアに広く生息している動物や石人などが候補に挙がっています。決定後は、ホームページや各種刊行物などすべての对外情報発信に際して用いる予定です。お楽しみに。

＜他団体からの情報＞

■ 「ウズベキスタン共和国大使館便り～シルクロードチャンネル」

（2000年12月号 VOL 9）より

□1月22日発売の「ポパイ」誌（マガジンハウス編集）で、「シルクロードのオアシス・ウズベキスタン大探検」というタイトルで別刷りの特集が組まれます。ガイドブックとしても役立ちそうです。

□4月下旬のゴールデンウィークの頃に、いよいよ待望の定期航空路が関西空港～タシケント間に開設されます。週1便で、現在のところ土曜日で調整中とのこと。

■ 12月11～13日に「ウズベキスタン物産展」開催

国内初のウズベキスタン物産展が、ウズベキスタン対外経済省とJETRO（日本貿易振興会）の共催により、赤坂ツインタワービルにおいて開催されました。初日の11日にはウズベキスタンへの投資を募る投資セミナーが開催され、ウズベキスタン通産大臣を始めとするウズベキスタン経済界の指導者達がウズベキスタンの為替や金融の環境、市場経済化に向けた条件整備の進行状況について説明し、石油・天然ガスから鉱物資源、観光投資の可能性まで含めた詳しい説明と質疑応答が行われました。物産展ではウズベキスタンの鉱物資源の見本や陶器ガラス製品などの美術工芸品など現地でもなければ見ることのできない産品を初めて一同にそろえ、現地から参加した企業関係者が説明にあたりました。

＜会員動向＞

■ ウズベクの山本さんから年賀状

あけましておめでとうございませう。21世紀もよろしくお願いたします。

いかがお過ごしでしょうか。サマルカンドで2回目の正月を迎えました。異国の地で2世紀にわたって暮らすのも感慨深いものがあります。今年の目標は現地人日本語教師を育てることと、日本語ガイド候補を養成することです。このためにガイド業はちよっと休まざるを得ない状況です。昨年は一般観光客を始め、羽田元総理のガイドをしたり、いろいろな人に会え、現地でも人脈が広がりました。ガイドはなかなか楽しい仕事です。

日本とウズベキスタンの関係は観光・経済分野などで少しずつ広まってきました。どうぞ中央アジア、ウズベキスタンをウォッチして下さいます。

山本雅宣

■ ウィグルの留学生ムタリフ君に女子誕生

昨年12月20日が誕生日。山に咲く赤い花から、チュブセンちゃんと言付けられました。

■ 佐々木伸一郎君に女子誕生

正月8日（午後4時）が誕生日。名前は只今思案中。

発行：ユーラシアンクラブ、発行人：大野遼 編集人：井出晃憲
2001年1月1日発行
住所：〒259-1206 神奈川県平塚市真田743-21
電話：0463-50-3335 / ファクス：0463-50-3336
E-mail：PAF02266@nifty.com
Homepages：http://homepagel.nifty.com/EURASIANCLUB/
印刷：テレサ株式会社
住所：〒142-0063 品川区荏原7-20-11
電話：3786-9724 / ファクス：5746-2441
E-mail：info@teresa.co.jp
Homepages：http://www.teresa.co.jp http://www.teresa-net.com